



しみのの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 広報サポーターだより……………2ページ
- 簡単レシピ&今月の渥美半島の花……………3ページ
- 地域の話(伊良湖校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ



広報サポーターだより

夢大使からの贈りもの

皆さん、こんにちは。広報サポーターの浪崎季代美です。田原市ふるさと大使(渥美半島夢大使)で、プロ野球東京ヤクルトスワローズ所属の小川泰弘選手(赤羽根町出身)が、昨年の12月に帰郷し、地元で開催された「少年野球教室」に参加しました。今回は、その様子についてご紹介します。

● 地元野球少年と触れ合った小川泰弘選手(写真中央)



● 送球動作を丁寧に指導



● 一人一人に声をかけます



● 真剣な表情で話を聞く子どもたち

田

原市ふるさと大使で、プロ野球東京ヤクルトスワローズ所属の小川泰弘選手が、12月7日(土)に開催された「少年野球教室」に参加し、地元野球少年約200名と触れ合いました。会場となった赤羽根文化広場は小川選手が少年時代に日々の練習で汗を流したグラウンド。小川選手がグラウンドに姿を現すと、出迎えた子どもたちや見学者から大歓声と拍手がわき起こりました。

この日は、シーズン中にバッテリーを組んだ中村悠平選手も参加。2人はキャッチボールから始まった子どもたちの全体練習を見ながら一人一人に声をかけ、積極的に動き回っていました。



広報サポーター
浪崎季代美
(高松校区)

田原市広報サポーターの部屋

- 田原市ホームページ
<http://www.city.tahara.aichi.jp/>
- ブログアドレス
<http://kohotahara.dosugoi.net/>
- ツイッターアドレス
<http://twitter.com/#!/KohoTahara>

全体練習を終えると、バッテリー組と野手組に分かれ、ボールの握り方や肘の使い方、捕球や送球の仕方などを指導。子どもたちはみんな真剣な表情で聞き入っていました。

教室の後半には、小川選手が自らマウンドに上がり、子どもたちが打席に立つというサプライズ登板も実現し、子どもたちにとって忘れることのできない最高の一日となりました。

最後に小川選手から、「1年間頑張れたのも、みんなが応援してくれたから。みんなの野球に対する情熱とその元気が力になるので来シーズンも頑張る。そしてまたみんなに会いに来ます」と力強い言葉が贈られました。